

1. 整備完了のご報告と今後について

当研究所は、平成11年7月に「旧核燃料試験研究施設整備についての今後の計画」を発表、これに基づきまして、施設P及び施設Eの整備を進めて参りました（施設の位置は下図ご参照）。

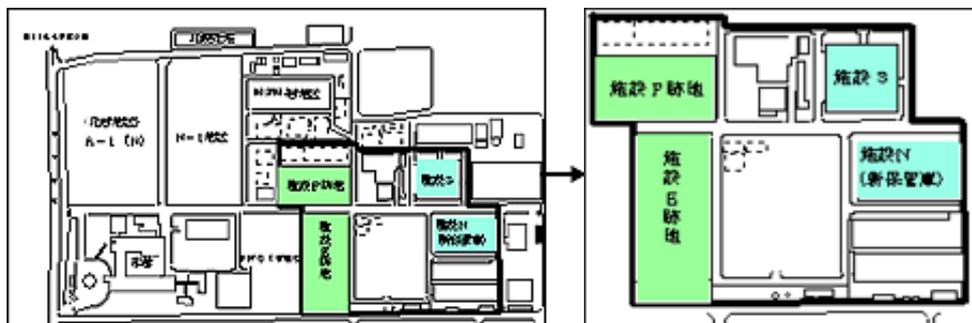
一昨年3月の新保管庫（地下保管庫）完成後、本年6月末までに、施設P及び施設Eから回収した放射性廃棄物等は、収納容器（角型容器）に入れた上で、全て新保管庫へ搬入するとともに、（財）日本分析センターによって敷地が自然界レベルであることを確認頂き、同施設の整備を完了致しました。今日までの近隣自治会の皆様並びに行政、関係各位のご理解・ご協力に対し、衷心より御礼申し上げます。

今後、現行法制が改正され、新保管庫から放射性廃棄物の搬出、処分が可能となるまでには時間がかかると思われますが、その間、適正な管理を行うとともに、毎年9月の見学会等情報開示に努めて参りますので、今後ともご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2. 整備施設の配置図

（研究所内配置図）

（保管庫周辺拡大図）



3. 整備作業完了に至るまでの主たる経過

平成11年7月	「今後の計画」発表
平成12年5月	施設E内の埋設物によって汚染した土壌の回収完了
平成13年7月	新保管庫を平屋建てから、地下保管庫への変更発表
平成15年3月	新保管庫完成
〃 6月	施設P解体
〃 7月	施設E解体
〃 10月	説明会開催（保管予定量を12,000本→30,000本に変更）
平成17年6月27～29日	第三者機関による最終確認作業実施（表紙ご参照）
〃 6月末	新保管庫への収納完了
〃 9月3日	定例見学会開催（整備完了の見学会）

4. 整備の状況（施設P及び施設Eの解体前、解体後の状況）

（施設P）

（解体前）

（解体後）



(施設E)

(解体前)

(解体後)



(注) 建屋の解体・撤去作業の詳細については、平成14年6月作成のパンフレット「旧核燃料試験研究施設の整備」(その2)に詳細を記載しております。

5. 最終確認作業の状況 (表紙の写真をご参照下さい)

- (1) 敷地全域の健全性を確認するため、日本分析センターにより、NaIシンチレーションサーベイメーターによって、地上1mの高さの空間線量当量率測定を行いました(2,067箇所)。その結果、線量率分布は、周辺の自然環境における放射線レベルの範囲であることを確認しました。
- (2) ボーリングコアを採取し、放射線測定を行いました。土壌中には自然に存在する放射性物質による放射能がありますが、これらのコアには、その濃度分布を超える汚染がないことを確認しました。

6. 保管状況

- (1) 地下保管庫の構造及び管理体制については別紙をご参照下さい。
- (2) 整備完了時の保管量 下表ご参照。
 なお、現在実施中の全域調査によって、放射性廃棄物が発見された場合、地下保管庫に収納することを検討しております。

	収納容器の種類	地下1階	地下2階	合計
三菱 マテリアル	角型容器(200Lドラム缶換算)	2,565(21,307.5)	1,019(7,642.5)	3,584(28,950)
	200Lドラム缶	—	152	152
NDC	角型容器(200Lドラム缶換算)	—	1,180(8,850)	1,180(8,850)

(200Lドラム缶換算総本数：三菱マテリアル 29,102本)

■ Q & A

Q1：この9月の見学会は、今後も毎年実施していくのですか？

A1：防災の日（9月1日）の前後は、全国的に防災に関する関心が高まる時期でありますので、今後も9月の見学会は実施して行きます。なお、本年は、7月に、春の役員改選により、自治会長や自治会役員になられた方を対象とした見学会を開催しましたが、今後もこれを継続していきたいと考えています。

Q2：住民は、会社が他から依頼されたりして、敷地外から地下保管庫に放射性廃棄物が新たに持ち込まれるのではないかと不安を持っていますが・・・。

A2：これまで色々な場面でご説明し、また、パンフレットにも書いておりますように、放射性物質及び放射性廃棄物の外部からの持ち込みは行いません。

Q3：地下保管庫は、コンクリートで頑丈に造られていますが、これは放射性廃棄物をここに永久に保管するためですか？

A3：構造は頑丈ですが、これは、仮の保管庫です。低レベル放射性廃棄物の処理・処分に向けて、現在、国レベルでの検討、事業者間の検討など、最終処分に向けての活動がなされておりますので、持ち出しが可能となるまでの間、仮に保管するための保管庫です。

Q4：施設P、施設Eの整備完了後の放射性廃棄物の日常管理はどうなるのですか？

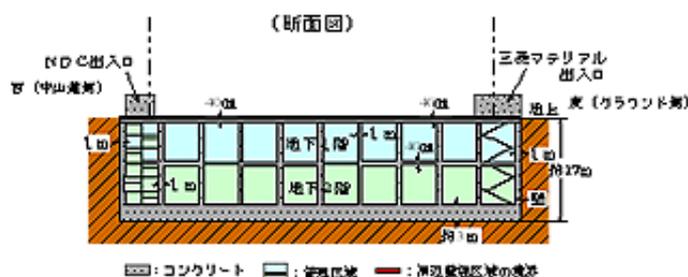
A4：専任の係員を配置し、会社の休業日を除き、原則として毎日、保管庫の状態を点検し、毎週1回、全ての放射性廃棄物(角型容器、200ℓドラム缶)の保管状態の点検を行います。

Q5：点検によって保管容器に異常を発見した場合はどのようにするのですか？

A5：通常は補修によって対応します。考えにくいことですが、万一、容器の交換が必要という事態が発生すれば、交換を実施します。

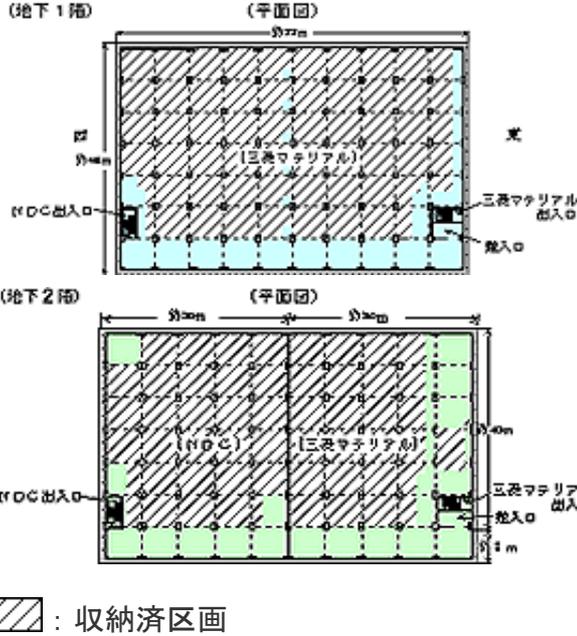
■ 新保管庫（地下保管庫）の概要

1. 工事期間 平成14年1月～平成15年3月（1年3ヶ月）
2. 構造 鉄筋コンクリート地下2階
3. 深度 約17m(概ねビルの4階分)。地上部から地下2階床面までは約14m
4. 工事期間 平成14年1月～平成15年3月（1年3ヶ月）
5. 床面積 1階、2階とも、約3,300m²（壁部分を含めた長さは、東西約72m×南北約48m）



(地上部)





■ 今後の安全管理

長年月の保管に対応した管理体制として、次のとおり対応して参ります。

項目		内容
安全対策	放射線防護	コンクリートの厚い壁と床によって遮へいされます。
	地震対策	最新の耐震設計基準に基づいております。
	火災対策	自動火災報知設備、屋内消火栓及び連結散水設備を設置しております。
日常管理	管理マニュアル作成	管理マニュアルを作成し、それに基づき管理を行ないます。
	管理区域の設定	保管庫内は放射線管理区域とし、入室する際は個人被ばく管理を行ないます。
	周辺監視区域の設定	地上部との境界を周辺監視区域境界とし、みだりに立ち入らないように管理します。
	放射線測定	管理区域内における放射線量を定期的に測定します。また、地上部の周辺監視区域境界においても放射線量を定期的に測定します。
	放射能測定	地下からの湧水などの排水中の放射能濃度を定期的に測定します。
	換気	給排気装置を運転し、保管庫内の空気の入れ換えを行ないます。
情報公開	点検作業	保管庫の状態及び放射性廃棄物の保管状態を定期的に点検します。
	相談室の常設	「近隣の皆様の相談室」は、引き続き設置し、各種お問合せにお答えしていくとともに、情報公開を行なって参ります。
情報公開	見学会開催	毎年、9月の「防災の日」の前後に、近隣の住民の皆様に保管状況を見て頂く見学会を行ないます。
	確認事項	「放射性物質及び放射性廃棄物」の外部からの持ち込みは行ないません。